

2023年度 第26回 関西まちづくり賞 表彰式を開催

日本都市計画学会関西支部では、1998年度から「関西まちづくり賞」を設け、まちづくり、都市計画の進歩・発展に著しい貢献をした優れた成果または実績を表彰しています。2023年度は、1つのプロジェクトをまちづくり賞に、2つのプロジェクトを奨励賞に表彰しました。

表彰式は、2024年4月13日（土）、関西支部総会に引き続いて開催し、表彰状及び盾の授与の後、受賞者によるプレゼンテーションとパネルディスカッションを行いました。



受賞者の皆さんと支部長、関西まちづくり賞委員会委員



パネルディスカッションでは活発な意見交換が行われました

<第26回 関西まちづくり賞 表彰プロジェクトの紹介>

◎関西まちづくり賞

① 『地域のひろばをつなぐ Common Loop』

受賞者：・石切のわ、近畿大学建築学部都市計画研究室、一般社団法人 baamu lab.

この事例は、東大阪市の石切・日下地域において、不動産オーナー・専門家・大学の連携のもと、遊休不動産等を活用し地域活性化につながる活動拠点を新たに複数設け、商店街など周辺地域の活性化と、地域活動に携わる人材の発掘、人的ネットワークの構築・拡大によりまちづくりの発展をめざす取り組みです。

個人所有の土地・建物を地域活動の拠点である「ひろば」とし、Public（公共）ではなく、Private（私）な場を Common（共）として活用することで地域活性化を目指すもので、地域特有のリソースを活用しつつ、関係者が連携して創造的なコミュニティ活動を展開しており、今後の活動にも大いに期待が持てる取り組みです。



ご受賞おめでとうございます



石切回廊（地域活動拠点＋商業施設）でのイベントの様子

◎奨励賞

② 『住民の想いを共有した防災まちづくり計画の策定と、防災意識と住民間連携を円滑にする防災ネットワークづくり』

受賞者：今熊野学区自主防災会

この事例は、京都市東山区の南側に位置する今熊野学区において、地区自主防災会が主体となり『みんなが安心、安全に暮らせる坂のまち今熊野』を目指し、防災まちあるきやワークショップ、講演会などを重ねながら住民参加による防災まちづくり計画を策定し、住民主体で取り組む防災まちづくりの取り組みです。

密集市街地における災害対策、地域の担い手不足などの地域課題に対して、防災まちづくり計画策定を契機とした防災まちづくり活動を通して、住民間の関係強化と防災情報のネットワーク強化を実現しています。今後は継続に加え、大学連携、三つの元学区を対象とした活動エリア拡大など、更なる展開を期待したいです。



ご受賞おめでとうございます



防災まちあるきの光景

③ 『地域社会との協働を通じたまちづくり学習の展開－高野町立高野山中学校「ふるさと学習」における4年間の取り組み－』

受賞者：浦井亮太郎・高野町立高野山中学校

この事例は、弘法大師空海によって開創された世界遺産高野山金剛峯寺を擁する仏教都市における学習を通じたまちづくり事例として、高野町立高野山中学校、地域社会、学習指導員が連携・協働し、単なる調べ学習に終始しがちな「ふるさと学習」の授業を、まちの未来を考える「人づくり」に焦点を当て、まちづくり学習へと発展させた取り組みです。

高野町のように人口が少なく、かつ仏教都市・観光都市という特殊な都市で、タウンミーティングに参加する市民の数が年々増え、まちの当事者としての意識が芽生え始めた中学生の発表を大人達が目を細めながら聞き、肩の力が抜けたまちづくり議論が行われている光景は、まちづくりの一つの希望的事例と捉えられ、今後の活動の発展を期待します。



ご受賞おめでとうございます



中学生のまちづくり提案を見て
意見を交わす町長と地域住民